

1. 評価報告概要表

全体を通して(※このホームの優れている点、独自に工夫している点など)	
<p>県立高校に隣接し住宅街の一角に位置する当ホームは、静かなたたずまいだが、一歩中に入ると、歌声が聞こえ職員には笑顔で迎えてもらった。入居者のコーラス隊は、前回の外部評価をふまえて立ち上げたもので、地域の人たちを招いたり、NPOセンター祭りに出かけたり、施設外との交流が盛んになっている。歌は心を和ませ消化器を強くするというが、入居してから元気になった人が何人もいる。日常の中では散歩や買い物、菜園の手入れや調理など入居者は役割を持って楽しそうに過ごしている。職員は入居者を尊重しつつ、さりげなく手を貸しており、入居者も職員も1つの家族といえるような穏やかで、暖かい暮らしがあると感じさせる。</p>	
特記事項(※優先順位の高い要改善点について)	
I	要改善点は特になし。入居者が生きがいをもって生活できるよう支援するという理念実現のための取り組みの1つとして、コーラス隊を結成し、地域交流まで発展させている。
運営理念	NPOという小回りの利く運営を活かし、改善への取り組みが迅速である。入居者が益々輝きを増し、生きがいと目標をもてるよう、また、現在の暖かく明るいホームが継続されるよう、今後も一層の努力を期待したい。
II	要改善点は特になし。冬期のリビングのこたつなど、居心地のよい場所となっている。今後も季節に応じて懐かしい居場所や空間づくりを考えてほしい。斬新なアイデアを期待している。
生活空間づくり	
III	個別具体的な介護計画に基づくケアサービスの実践のために、情報の収集、アセスメント、課題分析、問題点の抽出、目標の設定、具体的な介護計画の立案、実施、モニタリング、再アセスメントといった一連のプロセスを踏むことが望まれる。感染症対策は、職員の研修結果を即、活かして実践されているが、更に、外出から帰った時や外来者の手の消毒やうがいの装置を玄関に設置するなど工夫してほしい。また、上気道感染、消化器疾患、MRSA、疥癬などの対応マニュアルの作成に取り組んでほしい。
ケアサービス	
IV	今後も適切なサービスを前向きに提供していくために、職員の話し合いや他のホームとの交流を活かし、潜在的な職員のストレスを緩和するための取り組みを継続的に行ってほしい。
運営体制	また、家族が遠慮なく意見や要望を伝えたり相談できるような関係作りに向けて、今後も努力してほしい。

分野・領域	項目数	「できている」項目数	
		外部評価	
I 運営理念			
① 運営理念	4項目	4	
II 生活空間づくり			
② 家庭的な生活環境づくり	4項目	4	
③ 心身の状態に合わせた生活空間づくり	6項目	6	
III ケアサービス			
④ ケアマネジメント	7項目	6	
⑤ 介護の基本の実行	8項目	8	
⑥ 日常生活行為の支援	10項目	10	
⑦ 生活支援	2項目	2	
⑧ 医療・健康支援	9項目	8	
⑨ 地域生活	1項目	1	
⑩ 家族との交流支援	1項目	1	
IV 運営体制			
⑪ 内部の運営体制	10項目	9	
⑫ 情報・相談・苦情	2項目	2	
⑬ ホームと家族との交流	3項目	2	
⑭ ホームと地域との交流	4項目	4	

## 2. 評価報告書

項目番号	項目	できている	要改善	評価不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
	<b>I 運営理念</b> 1. 運営理念の明確化					
1	1 ○理念の具体化及び運営理念の共有 管理者は、認知症高齢者グループホーム(以下「グループホーム」という。)に関わる法令の意義を理解しており、これを自らが所属するグループホーム(以下「ホーム」という。)の運営上の方針や目標等に具体化し、介護従業者に日常的に話している。	○			管理者はグループホームの意義を良く理解し、運営の理念や方針を、母体法人の支援者や職員とともに話し合っているため介護従事者もよく理解している。	
2	3 ○運営理念の明示 ホームの運営理念を利用案内時の説明文書及びホームの見やすいところに明示し、かつ、入居者及びその家族等に分かりやすく説明している。	○			介護者が守るべき理念の大切な部分は事務室に額に入れて明示し、また入居者の尊重、自己決定などに関することはわかりやすい言葉で、更に大きな文字でホールの中央に掲げてあり、日夜入居者も見ることができる。	
3	4 ○権利・義務の明示 利用者の権利・義務を利用案内時の説明文書及び契約書に分かりやすく示し、かつ、入居者及びその家族等に説明し同意を得ている。	○			契約書・重要事項説明書・パンフレットに、ホームの理念や入居者の権利・義務を明示し、見学・契約時・入居時などに入居者、家族の両方に説明し、同意を得ている。	
	2. 運営理念の啓発					
4	5 ○運営理念の啓発 ホームの運営理念や役割が地域に理解されるよう、地域に対する運営理念の啓発・広報に取り組んでいる。(ホームの説明会、ホーム便り等)	○			隣接する高校や町内会の総会に管理者とともに入居者も出席して、グループホームの存在の説明やパンフレット・ホーム便りの配布などを行っている。	
<b>運営理念 4項目中 計</b>		4	0	0		
	<b>II 生活空間づくり</b> 1. 家庭的な生活空間づくり					
5	6 ○気軽に入れる玄関まわり等の配慮 違和感や威圧感を感じさせず、入居者や家族が入りやすく、近隣の住民も訪ねやすいよう、玄関まわりや建物の周囲に、家庭的な雰囲気づくりの配慮をしている。(玄関まわりに草花を植える、親しみやすい表札をかける等)	○			玄関周りは車が4~5台は止められる広さで、小さな花壇もあり優しい感じである。普通の住宅のような建物で入りやすいが雰囲気である。	普通の建物であるためグループホームとは気づかれにくいので、道路側(駐車場側)にある看板をもう少し目立つよう工夫すると良いのではないかと。
6	7 ○家庭的な共用空間づくり 共用の生活空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、いずれも家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的である。	○			共有空間にはあたたかい雰囲気のテーブル、ソファーやこたつがあり更に採光が暖かさを増している。小さな中庭には草木が植えられ、庭木はクリスマスにはツリーにしている。台所は入居者が自由に出入りでき活動しやすく、トイレは広く車椅子などの反転がしやすくなっている。全体に清潔である。	

千葉県 グループホームゆかりの里

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
7	8	○共用空間における居場所の確保 共用空間の中に、入居者が一人になったり気のあった入居者同士で自由に過ごせるような居場所を確保している。	○			入居者全員が1つの家族という雰囲気である。リビングにソファ、こたつ、椅子が置いてあり、のんびり話をする事ができる。1人の時間を過ごしたい時は居室を使用している。	
8	9	○入居者一人ひとりにあわせた居室の環境づくり 居室には、使い慣れた家具や生活用品、装飾品等が持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっている。	○			入居者の生活歴や好みによって居室がレイアウトされている。カーテンの色も様々で、たんす、ベッド、ソファ、冷蔵庫などがあり、写真やぬいぐるみなどで飾られている。	
<b>家庭的な生活環境づくり 4項目中 計</b>			4	0	0		
<b>2. 心身の状態にあわせた生活空間づくり</b>							
9	11	○身体機能の低下を補う配慮 入居者の身体機能の低下にあわせて、安全かつできるだけ自立した生活を送れるようにするための設備や工夫がある。(すべり止めや要所への手すり等の設置、浴槽・便座・流し台等の使い勝手の工夫、物干し等の高さの調節等)	○			現在の入居者は平均要介護2、2くらいで、ほとんどの人が立ち振る舞いは自立しており、散歩や買い物、菜園づくりなどで体力を落さないようにしている。トイレや洗面所、風呂場など要所所にはきめ細かく手すりなどが設置され、身体機能低下を補う配慮がされている。	
10	13	○場所間違い等の防止策 職員は、入居者一人ひとりがホーム内の場所が分かるかを把握しており、家庭的な雰囲気をこわさず、場所の間違いや分からないことでの混乱を防ぐための工夫をこらしている。(トイレや部屋の目印等)	○			入居者の居室には、手作りの表札が設置されており、必要なときは間違い防止の目印をつけている。夜間のトイレは一晩中点灯し、居室の入口にも足元灯を点け、場所間違いのないような配慮がされている。	
11	14	○音の大きさや光の強さに対する配慮 入居者が落ち着いて暮らせるように、音の大きさや光の強さに配慮している。(テレビ、職員の会話のトーン、照明の強度、まぶしさ、日射し等)	○			入居者がホールにいる時は、テレビの音を調節したり、日差しに対してブラインドを降ろしたり、さりげなく職員が配慮している。また、居室内の電気は、夜間のまぶしさを防止するような配慮がされている。	
12	15	○換気・空調の配慮 気になる臭いや空気のおよみがないように、換気を適宜行っている。また、冷暖房の温度調節は、冷やし過ぎや暖め過ぎがないように適切に行っている。	○			共有部分は大きな空調器、居室は家庭用の空調器が設置され、一人ひとりに合わせた温度調節ができるようになっている。操作はすべて介護者任せであるが、気配りが行き届いている。気になる臭いなどは一切感じられない。	
13	17	○時の見当識への配慮 見やすく、馴染みやすい時計や暦を、目につくところに設置している。	○			時計やカレンダーは見やすい所に設置されている。前回の外部評価結果をふまえて日めくりカレンダーを利用し、入居者から季節の行事を教えてもらっている。	
14	18	○活動意欲を触発する物品の用意 入居者の活動意欲を触発する馴染みの物品を用意し、本人の経験や状況に応じて提供している。(ほうき、たらい、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品等)	○			編物の好きな人には毛糸を提供したり、ひな祭りが近づくとポスター作りをお願いしたり、野菜づくりが好きな人は天気の良い日を選んで、職員とともに菜園の手入れを行っている。畑には青菜が元気良く育っている。	
<b>心身の状態にあわせた生活空間づくり 6項目中 計</b>			6	0	0		

千葉県 グループホームゆかりの里

項目番号		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		<b>Ⅲ ケアサービス</b> 1. ケアマネジメント					
15	20	○個別具体的な介護計画 アセスメントに基づいて、入居者主体の目標を立て、入居者一人ひとりの特徴を踏まえた具体的な介護計画を作成している。		○		入居時は「センター方式」を使ってアセスメントをし、6ヶ月後の見直しの時は独自の用紙を使ってアセスメントしているが、アセスメントからの目標設定がわかりにくい。	アセスメントを行ったら、問題点の抽出をし、介護目標を導き出し、具体的な介護計画、実践、評価と一連の介護プロセスを踏むことが大切であり、それによって整理もされるのではないだろうか。
16	21	○介護計画の職員間での共有 介護計画を、すべての職員の気づきや意見を採り入れて作っており、すべての職員が計画の内容を知ることができる仕組みを作っている。		○		職員から入居者の状態を聞きとり、介護計画に反映させるとともに、作成した計画は個人記録の前に綴じてあり、いつでも見られるようになっている。また、見たらサインするようになっている。	
17	22	○介護計画への入居者・家族の意見の反映 介護計画を、入居者や家族とも相談しながら作成している。		○		入居時のアセスメントの一部は家族に記入を依頼し、作成した介護計画は家族に提示し、意見を聞いた後サインを依頼している。	
18	23	○介護計画の見直し 介護計画に実施期間を明示して、その期間が終了する際に見直しを行うことはもとより、状態変化に応じた随時の見直しを行っている。		○		常に介護計画にそって介護は実施され、個人記録に経過は記録されているが、見直しとして記録されているのは6ヶ月に1回くらいである。	定期的に見直しはされているので、入居者の変化があった時、最低3ヶ月に1回位モニタリングとして記録に残すことも大切ではないだろうか。
19	24	○個別の記録 日々の介護や介護計画に反映させるため、入居者一人ひとりの特徴や変化を具体的に記録している。		○		各勤務帯で入居者の状態がよく記録されている。また、健康状態のチェックは1日2回、食欲のない人は食事の摂取量、水分の摂取量なども記録されている。	
20	25	○確実な申し送り・情報伝達 職員の申し送りや情報伝達を確実にいき、重要な点はすべての職員に伝わる仕組みを作っている。		○		管理日誌、申し送りノートなどを利用して確実に職員間の伝達を図るようにしている。	
21	26	○チームケアのための会議 チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、すべての職員で、定期的に(緊急案件がある場合にはその都度)会議を開催し、活発に意見交換を行って合意を図っている。		○		定例会議は月に1回、全員出席を原則としている。事情で出席できなかった場合は、記録を読みサインすることになっている。その他、事故や緊急な決定事項がある時には緊急会議が行われる。	
<b>ケアマネジメント 7項目中 計</b>			6	1	0		

千葉県 グループホームゆかりの里

項目番号	項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
	2. ホーム内でのくらしの支援(1)介護の基本の実行					
22	27 ○入居者一人ひとりの尊重 職員は、常に入居者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応を行っていない。(入居者一人ひとりの違いの尊重、さりげない介助、プライベートな場所での礼儀、本人の返答能力に応じた質問方法、本人が思っている「現実」を否定しない等)	○			職員は入居者の個性を大切にし、特徴をよく捉え、目上の人を尊敬するような言葉かけや対応がなされている。	
23	28 ○職員の穏やかな態度 職員の言葉かけや態度はゆったりしており、やさしい雰囲気です。	○			職員の言葉かけは穏やかで優しく、また明るい。スキンシップも大切にしている。	
24	30 ○入居者一人ひとりの過去の経験を活かしたケア 入居者一人ひとりの生まれてからこれまでの生活歴、本人にとって大切な経験や出来事を知り、その人らしい暮らしや尊厳を支えるためにそれを活かしている。	○			入居者の生活歴を大切に、居室のレイアウトをしたり、活動意欲を引き出す物を提供したりしている。以前の仕事に関する話題などで話が弾んだりしている。	
25	32 ○入居者のペースの尊重 職員は、職員側の決まりや都合で業務を進めていく態度ではなく、入居者が自由に自分のペースを保ちながら暮らせるように支えている。	○			施設としての1日の流れはあるがそれに固執する事なく、夜間眠れなかった人は朝十分寝かせ、その人の分の朝食はとっておくというように、柔軟な対応もできている。	
26	33 ○入居者の自己決定や希望の表出への支援 職員は、入居者一人ひとりが自分で決めたり希望を表したりすることを大切に、それらを促す取組を日常的に行っている。(選んでもらう場面を作る、選ぶのを待つ等)	○			髪型、着るもの、散歩、買い物など入居者の自己決定が実現できるように協力し、自由に希望の表出ができる雰囲気である。	
27	35 ○一人でできることへの配慮 自立支援を図るために、入居者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○			訪問時はお雑様の時期で、入居者が行なう会のポスター作りをしていた。マジックや下絵は準備してあり、色塗りなど、入居者のできそうなものには手を出さず、見守りながら支援している。	
28	37 ○身体拘束のないケアの実践 身体拘束は行わないということをすべての職員が正しく認識しており、身体拘束のないケアを実践している。	○			止むを得ず拘束しなければならない入居者はいないが、職員は拘束によって受ける、精神的・身体的弊害について十分理解し、勉強会も行っている。	
29	38 ○鍵をかけない工夫 入居者の自由な暮らしを支え、入居者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむような配慮をしている。やむを得ず鍵をかける場合は、その根拠が明白で、その理由を家族に説明している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○			交通の激しくない立地条件と、入居者の要介護度が比較的軽いということから、日中は鍵をかけていないが、夜間は普通の家庭のように鍵をかけている。	
介護の基本の実行 8項目中 計		8	0	0		

千葉県 グループホームゆかりの里

項目番号	項目		できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
	外部	自己					
	(2)日常生活行為の支援 1) 食事						
30	43	○馴染みの食器の使用 家庭的な食器を使っており、茶碗や湯呑み、箸等は、入居者一人ひとりが使い慣れたものになっている。	○			入居者が使用している食器は比較的新しい物だが家庭的であり、一人ひとり使っているものは違って、湯のみなどは氏名が付けられている。	
31	44	○入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫 入居者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法とつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。	○			咀嚼や嚥下の問題は特にはないが、食事の摂取量に多少差があるため、無理をしないように声かけをしている。また、食事に時間がかかる人にも、職員は急かせることもなく、待っている。	
32	45	○個別の栄養摂取状況の把握 入居者一人ひとりの摂取カロリーや水分摂取量、栄養バランスを、一日全体を通じておおよそ把握している。	○			普通に盛り付けられた食事を全量摂取できる人については記録は残されていないが、摂取量に問題のある人については、水分摂取量も含めて記録している。	
33	47	○食事を楽しむことのできる支援 職員も入居者と同じ食事を一緒に楽しんで食べながら、食べ方の混乱や食べこぼし等に対するサポートをさりげなく行っている。	○			朝夕の食事は職員主導型で作られているが、昼食は入居者が献立を考えて、買い物をし、にぎやかに楽しく調理している。職員も間に入って食事をしながら、さりげなく食べこぼしを取ったりしている。	
	2) 排泄						
34	48	○排泄パターンに応じた個別の排泄支援 おむつをできる限り使用しないで済むように、入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	○			自立に向けて排尿パターンをチェックし、誘導することによって効果を上げている。	
35	50	○排泄時の不安や羞恥心等への配慮 排泄の誘導・介助や確認、失禁の対応は、不安や羞恥心、プライバシーに配慮して行っている。	○			排泄の誘導は他の入居者にわからないように、用事があるように誘い、失禁の場合は風呂場などでそっと清潔にするよう配慮されている。また、汚したものを入居者がしまっただけは、さりげなく洗濯して戻している。	
	3) 入浴						
36	53	○入居者一人ひとりの希望にあわせた入浴支援 入居者一人ひとりの希望にあわせ、くつろいだ入浴ができるように支援している。(時間帯、長さ、回数等)	○			入浴の前には体温や血圧などのチェックをしている、いつでも入れるように準備してあるが、午後の希望者が多く、週2~3回である。入浴の嫌いな人には毛染めを勧めて自然に入浴できるよう誘導している。入居者に合わせた援助ができています。	
	4) 整容						
37	56	○理美容院の利用支援 入居者一人ひとりの希望にあわせて、理美容院の利用を支援している。(カット、パーマ、染め、セット等)	○			女性のカットはボランティアの美容師が来て行っている。男性の場合は家族が通院介助の時に理美容院に連れて行っている。	

千葉県 グループホームゆかりの里

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
38	57	○プライドを大切にした整容の支援  整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○			本人の好みに合わせて、職員が援助しており、入居者全員きれいにしている、気になる臭いのする人もいない。	
		5) 睡眠・休息					
39	60	○安眠の支援  入居者一人ひとりの睡眠の 패턴を把握し、夜眠れない入居者には、1日の生活リズムづくりを通した安眠策を取っている。	○			入居者は昼間に散歩やレクリエーション、掃除、調理などよく動くので夜間はよく眠る人が多い。時に眠れない人がいる場合は、夜勤の職員がお話などの相手をして眠くなるのを待つ。入居まで睡眠剤を使っていた人も、生活が安定してきて必要なくなっている。	
<b>日常生活行為の支援 10項目中 計</b>			10	0	0		
		(3) 生活支援					
40	64	○金銭管理の支援  入居者が自分でお金を持つことの大切さを職員が分かっており、日常の金銭管理を本人が行えるよう、入居者一人ひとりの希望や力量に応じて支援している。	○			職員と家族の話し合いで、入居者の財布に2000～3000円くらい家族が入れている。入居者は訪問販売の乳酸菌飲料を買ったり、買い物に出かけてお金を使い、職員は見守っている。少なくなったら家族がまた補充をしている。	
		(4) ホーム内生活拡充支援					
41	66	○ホーム内の役割・楽しみごとの支援 ホーム内で入居者一人ひとりが楽しみごとや出番を見い出せるよう、場面づくり等の支援を行っている。(テレビ番組、週刊誌、園芸、食器洗い、掃除、洗濯物たたみ、小動物の世話、新聞取り等)	○			コーラス隊を立ち上げ施設交歓・地域交流などの楽しみを見出している。日常では買い物・調理・菜園作り・洗濯物たたみ・掃除などのほか、誕生日の人がいると誕生会なども行っている。	
<b>生活支援 2項目中 計</b>			2	0	0		
		(5) 医療機関の受診等の支援					
42	68	○医療関係者への相談  心身の変化や異常発生時に、気軽に相談できる医療関係者を確保している。(医師、歯科医師、保健婦、看護婦等)	○			連携している医療機関の院長が介護支援専門員で理解があり、いろいろな相談ができ、夜間でも診てもらえるので安心である。	
43	73	○早期退院に向けた医療機関との連携  入院した場合、早期退院のための話しあいや協力を医療機関と行っている。	○			なるべく病院ではなくグループホームの中で支援をしたいという考えを持っている。現在、骨折の人が入院中であるが、ホームでの介護について検討中である。	
44	74	○定期健康診断の支援  年に最低1回は、健康診断や医師の指導を受けられるように支援している。開設間もないホームは、健康診断を受けられる準備や体制を整えている。	○			千葉市の人は住民健診を行い、他市の人は連携病院で1万円かけて健康診断を必ず受けている。	

千葉県 グループホームゆかりの里

項目番号		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		(6)心身の機能回復に向けた支援					
45	76	○身体機能の維持 認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下、平衡感覚の悪化、嚥下機能の低下等)を理解し、買い物や散歩、調理、楽しみごと等の日常生活の中で自然に維持・向上するように取り組んでいる。	○			入居者は散歩が好きで機能低下予防になっている。また、コーラスもボイストレーニングになり、精神的にも楽しみがあって、体力の維持向上につながっている。入居してから体力が向上した人が何人もいる。	
		(7)入居者同士の交流支援					
46	78	○トラブルへの対応 職員は、入居者同士のけんかやトラブルの原因を把握し、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の入居者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○			箸の持ち方が気に入らない、冗談に対して怒る、湯たんぼを入れてほしいと言った人を怒るなど、些細なトラブルが発生する。その際には、それぞれにゆっくり話を聞き、受け入れて納得してもらい大きなトラブルに発展しないようにしている。	
		(8)健康管理					
47	80	○口腔内の清潔保持 入居者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○			食後の歯磨きは徹底されている。歯科衛生士の指導なども受けている。	
48	83	○服薬の支援 職員は、入居者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量を承知しており、入居者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、症状の変化を確認している。	○			薬は大切な物として職員で管理している。朝、昼、夕、と個別にケースに分け、1回分ずつ手渡して服薬を確認している。個別の薬剤の作用、副作用を記したシートも整理してある。	
49	85	○緊急時の手当 入居者のけが等の緊急時に、職員は応急手当を行うことができる。(けが、骨折、発作、のど詰まり等)	○			実際に入浴後の呼吸不全や転倒による頸部骨折という場面に遭遇し、応急処置を体験したので、職員は応急処置の知識や対応の手順について自信をつけている。	
50	86	○感染症対策 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA等)		○		インフルエンザの予防接種や外出後のうがい・手洗いなどは行われており、ペーパータオルも使用されているが、一つひとつのマニュアルがあればなお良いと思う。	上気道疾患、消化器疾患、MRSA、疥癬など対応マニュアルがあればなお良いと考える。
<b>医療・健康支援 9項目中 計</b>			8	1	0		

千葉県 グループホームゆかりの里

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		<b>3. 入居者の地域での生活の支援</b>					
51	90	○ホームに閉じこもらない生活の支援 入居者が、ホームの中だけで過ごさずに、積極的に近所に出かけて楽しめるような雰囲気を作っている。(買い物、散歩、近隣訪問、集会参加等)	○			入居者は元気があり、散歩や菜園づくりが好きで、隣接の高校や町内会の総会や夏祭りに出たり、コーラス隊でNPOセンター祭りに出たりと行動的である。	
<b>地域生活 1項目中 計</b>			1	0	0		
		<b>4. 入居者と家族との交流支援</b>					
52	94	○家族の訪問支援 家族が気軽に訪問でき、訪問時は居心地よく過ごせるような雰囲気を作っている。(来やすい雰囲気、歓迎、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○			家族の訪問は入居者とともに職員も歓迎している。家族会ができ、家族との交流もできている。	
<b>家族との交流支援 1項目中 計</b>			1	0	0		
		<b>IV 運営体制</b> 1. 事業の統合性					
53	96	○責任者の協働 法人代表者及び管理者は、ケアサービスの質の向上に熱意を持ち、それぞれの権限や責任をふまえて、共に取り組んでいる。	○			管理者・責任者兼任であり、NPOという縛りのない体制から、意欲的に取り組み、改善などもスピーディーである。	
54	97	○職員の意見の反映 介護従業者の採用、運営方法、入居者の受入れや入居継続の可否については、職員の意見を聞いている。	○			管理者は意見を受け入れる雰囲気を作っており、職員の同意を得て運営を進めている。	
		<b>2. 職員の確保・育成</b>					
55	101	○入居者の状態に応じた職員の確保 入居者の状態や生活の流れを支援するために、これに即した職員の勤務ローテーションを組んでいる。	○			入居者の状態やペースに合わせたローテーションを組み支援している。	
56	103	○継続的な研修の受講 職員が、採用時、フォローアップ等それぞれの段階に応じた研修を受講し、その内容をすべての職員に周知している。	○			認知症介護の研修会、感染症の研修会などを受講し、他の職員に研修報告も行われている。ペーパータオルの取り付けや手洗い石鹸の液体化などは研修報告を活かしてすぐに実現したものである。	
57	105	○ストレスの解消策の実施 職員の業務上の悩みやストレスを解消する方策を採り入れている。(外部者と接する機会、職員相互の親睦、悩みの聴取、スーパーバイザーの導入等)		○		ローテーション上、職員のための親睦会開催は無理であり、新年会などは入居者と一緒に行っている。いつも入居者が元気であることを励みとして仕事を楽しているが、職員の話し合いなどを通して、ストレス解消の必要性は認識している。	職員の話し合いや他のホームとの交流を活かし、職員のストレスを緩和するための取り組みを継続的に行うことが期待される。

千葉県 グループホームゆかりの里

項目番号	項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
	<b>3. 入居時及び退居時の対応方針</b>					
58	107 ○入居者の決定のための検討 グループホームに適した入居対象者であるか、十分に検討している。(介護保険被保険者証、診断書、入居申請に至る経過、生活や対人関係、入居者・家族の希望等)	○			入居申し込みがあった場合、当ホームで支援できるか、どんな介護が必要かなど、管理者と職員で検討し、職員も納得・同意のうえで入居を決めている。	
59	109 ○退居の支援 退居は、契約に基づくとともにその決定過程が明確である。また、入居者や家族に十分な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○			退居は過去に2例あり、1例は急変死亡、1例は家族との意見の相違で家族が引き取る事になった。退居先について検討や相談の必要がある場合は、それに応じる体制はある。また、ホームとしては重度化したから退居ということは考えていない。	
	<b>4. 衛生・安全管理</b>					
60	112 ○ホーム内の衛生管理 ホーム内の清潔や衛生を保持している。(食品、布巾、包丁、まな板、冷蔵庫、洗濯機等)	○			まな板やふきんなどは漂白剤で消毒、その他の設備は掃除や手入れが行き届き、衛生的で清潔な管理がなされている。	
61	114 ○注意の必要な物品の保管・管理 薬や洗剤、刃物等の注意の必要な物品については、保管場所、管理方法等を明確に取り決め、かつ、そのとおりに実行している。	○			薬は事務室に、洗剤などは浴室の高い棚に、刃物はキッチンユニットの目立たないところに鍵をかけて保管されている。	
62	116 ○事故の報告書と活用 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態が発生した場合、事故報告をまとめており、サービスの改善につなげている。(再発防止の話しあい、今後に活かす意義づけ等)	○			事故報告書とヒヤリハットは別々に綴じてあり、事故のときは緊急会議を開いて検討し、ヒヤリハットは定例会議などで再発予防、事故への発展予防について話し合われている。	
<b>内部の運営体制 10項目中 計</b>		9	1	0		
	<b>5. 情報の開示・提供</b>					
63	118 ○調査等の訪問に対する対応 介護相談員や評価調査員等の訪問時には、情報を積極的に提供している。	○			調査に対して大変に受け入れがよく、改善していこうという姿勢で、資料も積極的に提示されている。	
	<b>6. 相談・苦情への対応</b>					
64	119 ○相談・苦情受付の明示 相談や苦情を受け入れるホーム側の窓口及び職員が明確であり、入居者及び家族にその利用の仕方を文書と口頭で繰り返し伝えている。	○			苦情や相談受付はいつでもできる体制にしてあるが、今まで1度もない。今後は家族会などに働きかけて意見など聞いていこうという考えがある。	
<b>情報・相談・苦情 2項目中 計</b>		2	0	0		

千葉県 グループホームゆかりの里

項目番号	外部	自己	項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
<b>7. ホームと家族との交流</b>								
65	122		○家族の意見や要望を引き出す働きかけ 家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、面会時の声かけ、定期的連絡等を積極的に行っている。		○		家族会を通して働きかけており、まだ特に要望などは出ていないが家族側から行事などへの協力の申し出があるなど、話し合える関係ができてきている。その他、個別に本音を引き出せるよう、訪問時などに声をかけている。	家族会の更なる充実と、家族が遠慮なく意見や希望を伝えられる関係作りに向けて今後も努力してほしい。
66	123		○家族への日常の様子に関する情報提供 家族に、入居者の暮らしぶりや日常の様子を定期的、具体的に伝えている。(「たより」の発行や行事ビデオの上映、写真の送付等)		○		入居者の暮らし振りについては、写真入りの広報を作って配付し、ホームの行事や様子も含めて見てもらえるようになっている。また、訪問した時はビデオなども見られるように用意されている。	写真入りの広報が家族以外のところに行くときは、家族の了解を取るなど、個人情報に関する配慮も求められる。
67	126		○入居者の金銭管理 入居者が金銭の管理ができない場合には、その代替方法を家族と相談の上決めており、家族に定期的その出納を明らかにしている。		○		金銭については入居の時に家族と話し合い、1万円程度施設で預かり、定期的に受払いを送付している。本人には2000～3000円家族がサイフに入れ、自分で買い物できるシステムになっている。買い物の時の見守りは職員が行っている。	
<b>ホームと家族との交流 3項目中 計</b>				2	1	0		
<b>8. ホームと地域との交流</b>								
68	127		○市町村との関わり 市町村との連絡を密にとり、家族介護教室等の市町村事業を積極的に受託している。		○		市町村事業を受諾したわけではないが、介護教室を開いて23名の参加者があった。また、介護保険上の問題点などについて市に質問や確認などを行っている。	
69	130		○地域の人達との交流の促進 地域の人達が、遊びに来たり立ち寄ってくれたりするように取り組んでいる。		○		周辺地域の人から大きな冬瓜やお花をもらったり、ボランティアにも来てもらっている。クリスマスには入居者で立ち上げたコーラス隊を含めた演奏会に地域の人を招待したり、隣接の高校や町内の総会に入居者も参加したり、夏祭りに出たり、ホームで開いたガレージセールに来てもらったり、交流が深まっている。	
70	132		○周辺施設等の理解・協力への働きかけ 入居者の生活の安定や拡がりのために、周辺地域の諸施設から協力を得ることができるよう、理解を拡げる働きかけを行っている。(商店、福祉施設、警察、消防、文化教育施設等)		○		買い物の為、商店と関わったり、レストランや美容院と積極的に関わったり、散歩時には挨拶したり、自然な関わりができるようになっている。また、高校生のマラソンコースでもある前の道に出て声かけしたりして、入居者も元気を貰っている。更に消防署も気にかけてくれて、火災訓練も年に2回行われ、カーテンを防災加工する指導も受けている。	
71	133		○ホーム機能の地域への還元 ホームの機能を、入居者のケアに配慮しつつ地域に開放している。(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受入れ等)		○		救急救命法を地域の人と学んだり、介護教室を開いたり、隣接高校のボランティアを受け入れたりしている。また、入居者のコーラス隊と高校のプラスバンドの合同演奏会なども企画する話が出ている。	
<b>ホームと地域との交流 4項目中 計</b>				4	0	0		

※ (1)「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。  
(2)「職員」には、管理者及び非常職員を含む。